

## 国語科授業実践力の育成と研究視点の種まき

国語教育講座・氏名 三浦和尚

### 1. 授業の概要

小学校におけることばの学習は、あらゆる学習の基盤となるという意味できわめて重要である。ことばは認識そのものであり、思考のための唯一のツールである。言語の教育としての国語科は、あらゆる認識・思考活動の基盤を形成し、学校における学びのための前提となる。国語科が基礎教科といわれるゆえんである。

本授業では、中学校との関連を含む言語の発達論を根底に、学習者を言語生活者として位置付け、言語生活の学習指導のあり方を、小学校国語科教育の目標・内容・方法という視点から考察することにより、小学校国語科教育の目標・内容・方法について理解を深めると共に、その実践力の基礎を養おうとした。

実践力の育成という観点から、具体的な教材を対象に、実践と研究という両面からアプローチしていった。国語科教育全体を視野に入れるとともに、今日的な課題についての理解を深め、合わせて、授業構想力、授業評価力などについても身につかせようとした。

授業においては、次のような「考えたいこと」を課題の形で提示し、これらの課題にこたえることができることを授業の到達目標とした。

1. 国語を教えることには、どのような意義があるのでしょうか。
2. なぜ国語は、他の教科よりも、特に低学年において時間数が多いのでしょうか。
3. 「国語教育」と「国語科教育」はどのように違うのでしょうか。
4. 国語科教育の目標はどのようなものなのでしょうか。
5. 国語科教育は、どのような内容を扱うのでしょうか。
6. 国語の教材研究は、どのようにしたらよいのでしょうか。
7. 学習者を中心にした授業とは、どのようなものなのでしょうか。

8. 国語科の学習指導計画は、どのように立てればよいのでしょうか。
9. 国語科の学習指導案作りで気をつけるべきことは何ですか。
10. 学習指導の評価は、どうあるべきものなのでしょうか。
11. 「読むこと」の学習指導は、どのような文種を扱いますか。
12. 「読むこと」の学習指導で気をつけることは何ですか。
13. 国語の読解・解釈に、正解はあるのでしょうか。
14. 「書くこと」の学習指導はどのように展開すればよいのでしょうか。
15. いわゆる「赤ペン」を入れるときに気をつけることはどんなことですか。
16. 「話すこと・聞くこと」の学習指導はどのように展開すればよいのでしょうか。
17. 「話すこと・聞くこと」の評価はどのようにすればよいのでしょうか。
18. 「言語事項」として学ぶべきことには、どのようなことがありますか。
19. 「文字指導」は、どのように行えばよいのでしょうか。
20. 「書写指導」は、どのように行えばよいのでしょうか。(ちなみに私は字が下手です)
21. 読書指導はどのように行えばよいのでしょうか。
22. 1年生はじめの「入門期」は、どのように指導すればよいのでしょうか。
23. 「国語単元学習」というのは、どのようなものですか。
24. 他の教科、特に生活科や総合的な学習と、どのように関連させるのですか。さて、究極の問題です。
25. 「楽しくて、よく分かる」授業を創るには、どのようにしたらよいのでしょうか。

テキストとして、数年前から拙著『国語教室の

実践知—確かな学びを保証する 25 の視点(キーワード)—』を使用している。このテキストは、国語科授業における実践上のキーワードについて、その在り方を簡潔に示したものであり、学生の学びには適合したものと考えている。その目次は、以下のとおりである。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 発問          | 2 机間指導        |
| 3 板書          | 4 教育話法        |
| 5 指名          | 6 復唱(古田)      |
| 7 読み聞かせ       | 8 「学習の手引き」    |
| 9 ワークシート      | 10 視聴覚機器      |
| 11 導入         | 12 学習課題       |
| 13 宿題         | 14 評価         |
| 15 グループ       | 16 評価言        |
| 17 話し合い学習(交流) | 18 指示         |
| 19 笑顔         | 20 読書感想文      |
| 21 センテンスカード   | 22 教材研究       |
| 23 三読法        | 24 目標・ねらい・めあて |
| 25 書き込み       |               |

これらの項目のうち、前期の課題の説明に必要な項目を適宜抽出し、授業を展開した。

また、今年度は発達という視点を明確にするために、小学校2年生の物語教材「お手紙」を取り上げ、その指導案作成を行った。これは、国語科の指導目標の在り方と、国語科における指導技術としての発問の在り方を念頭に、具体的に指導案を作成させ、添削した上で、模擬授業につないだものである。

ただ、「お手紙」は長年の教材としての歴史を持った安定教材であったため、以前に教材とした「夕日のしずく」とは異なり、様々な先行研究を踏まえたものが多かった。この点は、先行研究を踏まえるという一時限高い学習となる場合と、先行文献に引きずられる(あるいは移すに近いものになる)という場合とが生まれ、功罪相半ばすると思われる。

## 2. 授業評価の方法

面談法と感想記述を中心としたアンケート法によった。

全受講者数は110名である。

## 3. 結果の概略と感想

以下に複数の学生の感想を提示して、授業を振り返る。

A 本授業で「国語教育の本質が思考である」こ

とを新しい知見として得た。私はこの授業を受けるまでは、国語教育でメインになることは、読む・書く・聞く・話すという4技能だと考えていた。特に読む・書く能力については国語の授業に於いてほとんど見に着け、力をのばしていたように思っていたので、その二つの技能より施行が重要だとはとても意外だった。なぜ思考能力が国語教育において最も大切なのかということについて、自分で考えを深めていかなければならない。[この感想は、国語科の本質について理解を深めているものであり、そのことの意味については、卒業後具体的に気付かされるものであろう。]

B 私は音読についての先生のお話しがとても印象に残っている。先生は「小さい子がある一文の音読を繰り返して暗唱ができるようになったということは、その文も内容は理解しているということである」とおっしゃっていた。この話を聞いて、声に出して繰り返し音読することは、子どもたちに言葉を体にしみこませるための作業なのだと気付いた。音読に対し深い意味を考えたことはなかったので、このような目的があったということがわかりとても驚いた。

[国語科の営みの具体について、その意義を確認したものである。]

C 本授業を通して学び得たことは多い。テキストとして利用した『国語教室の実践知』については、半年後の教育実習に向けて読みこまねばならないと考えるほど、実践的であると同時に今まで当たり前だと感じていた間違いに気づかされた。国語科の教育的目的については私自身よくわからなかった。しかし、本授業で社会生活を営む上で必要な技術を、より精密に、より効率良くするためのものを知った。この理解がなければ、正しい国語科の授業を計画することはできないだろう。

[テキストの有用性について言及している。]

## 4. 今後の課題

子細に見れば、シラバスの通りには必ずしも流れていない場合が多い授業であったが、学生の反応を見ながら内容を変えたところがあり、その点は「生成発展する授業をよしと考えれば、シラバス通りにはならないのが当然」という前提に沿った結果だと考えている。

引き続き実践的な力の育成を主眼とするほかはない状況であるが、専門学校とはちがうという意地もあり、研究的な視点の育成、あるいは、数年後に現場でその意味に気づくようなメッセージを送ることに意を払いたい。